

元気

まち物語

2014.9



貴和の里にっごう会

ち上がり、20人で設立。そのとき、廃校となった轡井分校を「何らかの形で残したい」との思いから、活用することになりました。

活動は積極的だ！

菊川町の東の端にある3つの集落「椋の木、道市、轡井」で構成する「貴和の里にっごう会」。会は、緑豊かな山あいにある3集落を元気にし、美しい里づくりを続けるために設立されました。

3つの集落をつなぐ「貴和」

なぜ「貴和」というのでしょうか。これは、寺子屋を開き、3集落の小学校の礎を築いたという「貴和」尚さんに由来しており、明治時代に開校した貴和小学校の由来でもあります。これに加え、現代に必要な「貴い和」という意味も込められているそうです。

会が結成されたのは平成19年。限界集落となりそうなほどの高齢化や、農林業の衰退、シカ・イノシシなどの出没が深刻な問題となってきたことに「この状態をどうにかしなければ」と地元住民が立

会員は地元だけでなく、会の趣旨に共鳴した地域外からも加わり、現在90人。活動はとても精力的で、タケノコ掘りや田植え&芋植え、そうめん流しや餅つきなど、1年を通して四季折々の活動をしています。夏の工作教室では、小学生が大学生と一緒に世界に一つだけの物作りをするなど、活動は多世代にわたります。他にも、国の補助事業に応募し、炭窯を構築したり、空き家を利用した宿泊体験を行ったりと、さまざまなモデル事業を実践してきました。

韓国との国際交流で本場のキムチ作りを習い、現在は「道の駅きくがわ」などで販売。少量しか作れないのは、添加物は一切使わず、集落で取れた野菜で作るから。「地域を紹介しながら売ることに意味があるんです」と会長の吉村利道さんと、事務局の岡本雅さんは力強く話してくれました。

このまま放置はしたくない！

限界集落に近い年齢構成、労働力不足、荒れた耕地や山林など、いずれをとっても、たやすくは解決できません。「このまま放置すれば、集落は崩壊してしまいます。その前に自分たちでできることをしたい」と、故郷への思いから活動は続いています。空き家を修繕した「貴和の宿」の利用促進など、「地道に手掛け、ここに住んで皆と一緒に活動できて良かったと喜べるように頑張りたい」と吉村さんと岡本さん。いずれ、域外に出て行った人が「地元に戻って仲間に入ろうか?」となることを期待しながら、今日も貴和のために励みます。

●みんなでおいでよ！「貴和の里」

活動に参加してみませんか。

岡事務局 ☎287-1096

- ①～⑤ 宿泊体験や芋掘りなどの季節ごとのイベントが盛りだくさん！参加者に大好評です。
- ⑥ 会長の吉村さん(左)と事務局の岡本さん(右)。
- ⑦ 「貴和の宿」にあるお手製のいりり。
- ⑧ 宿泊できる「貴和の宿」。五右衛門風呂もあります！

